

♪月わが家のアイドル♪



向陽台
澤田 航希ちゃん (1歳1カ月)
元気に育ってくれてありがとう。



津々山台
上野 湊史ちゃん (4カ月)
湊史君はパパとママ、じいじとばあばの宝物♡



加太
山脇 伊央利ちゃん (2カ月)
すくすく元気に育ってね☆

みんなの広場

寿 100歳おめでとうございます! 寿

宛先

584-8511
富田林市役所
情報公開課広報係
常盤町1番1号
住所・氏名・ふりがな・電話番号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月齢)、電話番号を記入し、封書で上記の宛先まで応募してください。また、市ウェブサイトからもご応募いただけます(右図のQRコードから応募ページにアクセスできます)。なお、今応募された場合、掲載は約5カ月後になります。



12月1日、田中 愛子さんが100歳の誕生日を迎えられました。ご家族や施設の人にお祝いされ、とても喜んでおられました。



12月9日、福里 エダさんが100歳の誕生日を迎えられました。野球が大好きだそうで、今でもテレビでよく試合を観戦されているそうです。

川柳

富柳会 山野 寿之選
今月の宿題「散」

秀句 酔いどれて流れ解散冬の星 藤沢台 高橋 潔

ハ選評V酔いどれてはひどく酒に酔った人、酔っぱらいの意。忘年会や新年会が続く賑やかな酒宴が終わり、流れ解散、終電車で我が家への帰路、冬の寒空には綺麗に星が輝き、嫌な年を忘れ、良い新年を迎えられました。

徘徊のように吟行する散歩 高辺台 児玉 暢夫

ゴッホ展五千人目の花吹雪 藤沢台 二宮 章子

お正月散った家族で鍋囲む 藤沢台 佐藤 清次

未熟児が花吹雪浴びランドセル 錦ヶ丘町 松島 清美

青い空君の笑顔に花吹雪 甲田 清井 浩

桜散る散ってたまるか道十色 不動ヶ丘町 甲斐 美代子

閑散は仕舞不動の露天商 選者 吟

※2月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は12月31日で締め切りました)。

川柳・短歌は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

4月号の「川柳(宿題「楽」)は2月29日(土)、5月号の「短歌」は3月31日(火)までに応募(いずれも必着)してください。

宛先は上記をご覧ください。

市こども会育成連絡協議会

市こども会育成連絡協議会（市こ連）は、市内のこども会の相互交流を図るとともに、こども会活動の発展を促進するための育成指導をすることを目的として、昭和48年に発足しました。

令和元年12月時点で、市こ連には22団体が加盟し、さまざまな活動をしています。

◆こども会ってなあに？

こども会とは、主に小学生の子どもたちを対象として地域によって組織される団体です。異なった年齢の子どもたちが一緒に活動することで、学校とは違った集団活動を経験することができます。

◆こども会はどんなことをしているの？

季節ごとに遠足やお祭りなどの交流活動、廃品回収や公園の清掃などの地域活動を実施しています。

◆市こ連の活動内容は？

市こ連では、こども作品展やたこあげ大会など体育・文化事業を毎年開催しています。

そこには各こども会から多くの子どもたちが参加しています。



こども作品展表彰式

また、小学4～6年生を対象に「チャレンジクラブ」を開催し、年間を通して、次のようなプログラムを実施しています。

- 消防体験
- 宿泊研修
- 相撲体験
- ハイキング
- クリスマス会
- 創作もちつき

子どもたちは、このようなさまざまな活動を経験することで、

自主性や協調性が養われます。さらには、こども会や校区を越えた仲間づくりができることも、大きな成果の一つとなっています。



消防体験

なお、こども会活動では、けがや事故などが心配ですが、市こ連に加盟しているこども会では、同会活動中のけがや事故について補償する安全共済会に加入していただけますので、安心して活動することができます。市こ連やこども会について詳しく知りたい場合や、近くのこども会が分からない場合などは、生涯学習課内市こども会育成連絡協議会事務局まで、気軽にお問い合わせください。

生涯学習課（☎26）8056

多文化共生を考える

2019年秋、日本で開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表が史上初のベスト8に進出するなど、数々の熱戦に日本中が熱狂の渦に巻き込まれました。ラグビー日本代表チームは、多数の外国人選手で構成されており、多文化共生社会を具現化しているように感じました。チーム一丸となり協力して目標に向かう姿は、まさにチームのスローガンに掲げていた「ONE TEAM」そのものでした。

■新しい価値観に出会う機会が増えていく中で

さて、2019年4月に「改正出入国管理法」が施行され、国では今後5年間で約34万5000人の外国人労働者の受け入れを見込んでいます。さまざまな文化、言語、ルーツのある人が共に暮らしていくことで、社会が多様性に富み、新しい価値観に出会える機会が増えていくことでしょう。多文化共生社会へさらに前進するという期待も膨らみます。

その一方で、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（通称、ヘイトスピーチ解消法）」や大阪府でも同様の条例が施行されたことなどから、多文化共生社会に関するさまざまな人権課題があることも事実です。

■多文化共生への取り組みを進めるために

本市では、外国にルーツのある人に対して、市の案内などを多言語でできる体制の構築や通訳・翻訳サポート、日本語よみかき教室の実施などの支援を進めています。学校では、母語支援や日本語指導を実施したり、外国のさまざまな文化に触れる機会を設けたりするなど、多文化共生教育に力を入れて取り組みを進めています。

また、本市ではさまざまな国籍や文化的ルーツを持つ市民が、共に暮らすことのできる多文化共生のまちづくりを総合的に推進するため、「市多文化共生推進指針」の改定に取り組んでいます。

このような取り組みは、外国にルーツのある人にとって安心した生活につながるだけでなく、地域や学校で共に生活している人にとっても、多くの国の人との関係が深まることになり、社会の中にあるさまざまな偏見や差別に気付く力を付けていくことにもつながります。

私達も、ラグビー日本代表チームのように「ONE TEAM」として、互いの違いを認め合い、理解、尊重する気持ちを大切に、誰もが住みよい社会を形成していきたいものですね。

教育指導室（内線364）

